

平成27年度 第2回福岡市南区地域包括ケア推進会議 議事要旨

1 日時 平成28年2月25日(木) 14:00～16:00

2 会場 南市民センター 視聴覚室

3 出席者 別紙のとおり

4 次第

1 開会

2 南区保健福祉センター所長あいさつ（代理：地域保健福祉課長）

3 議事

【議題1】各専門部会の開催状況について ……資料1

【議題2】地域ケア会議の開催状況について ……資料2

【議題3】抽出された地域課題等について ……資料3

【議題4】地域課題解決に向けた検討について

○検討課題1：地域包括ケアシステムの啓発（市民・専門職）について

○検討課題2：身寄りが無い（親族の関わりが無い）高齢者への支援について

【議題5】情報交換等

6 その他

7 閉会

5 会議経過

【議題1】各専門部会の開催状況について ……資料1

・事務局より、資料1に沿って説明。

会長	・新しい部会が立ち上がったが、何か問題はあったか。
事務局	・特に問題なくスムーズに開催できた。今後はそれぞれの部会においても課題の検討を行っていくことになる。
会長	・来年度からの予定は。
事務局	・権利擁護部会と生活支援・介護予防部会は年2回開催予定である。在宅医療・介護部会は現在、年5回の開催に加え世話人会を年3回開催しているところであるが、来年度は見直しを予定している。

【議題2】地域ケア会議の開催状況について . . . 資料2

・事務局より、資料2に沿って説明。

会長	・個別支援会議において、現時点で抽出された共通の課題はあるか。
事務局	・現状では開催回数が少なく、これから見えてくるものだと思っているが、例えば、独居の認知症高齢者による近隣トラブル・ゴミ屋敷問題など、生活支援で地域の協力が必要な課題が出ている。また、買い物の際に支払いができなかったり同じものを何度も買ったりしてコンビニ等から心配の声があがったりしているものもある。今後、開催を重ねることにより見えてくると思われる。
会長	・個別支援会議はどのくらい行うのか。昨年度はどうだったのか。
事務局	・個別に問題があれば必要に応じて適宜開催していくことになる。1回の会議では解決しないこともあり、同事例で複数回行うことも想定している。 ・個別課題に対応するための会議は今までも開催していたが、地域ケア会議は平成27年度から地域包括ケアシステムを推進するためのツールとして位置づけられたため、地域ケア会議としての開催は今年度からとなっている。
委員	・出席者の選定はどのように行っているのか。
事務局	・該当する事例に実際関わっている関係者であり、基本的には包括が調整を行っている。なお、包括が把握していない場合もその関係者からの紹介によって出席を依頼することもある。
委員	・当会に出席依頼がなく、把握できていなかった。
事務局	・直接関わっている関係者に個別に依頼しており、本会議のように各関係団体や関係機関に依頼しているものではない。

【議題3】抽出された地域課題等について . . . 資料3

・事務局より、資料3に沿って説明。

委員	・「安心情報キット」とはどのようなものか。
委員	・「安心情報キット」とは、支援を必要とする方の緊急連絡先等の情報を記入したカードを筒に入れ、冷蔵庫内に保管しておくものである。 ・緊急時に救急隊がその情報を見て対応することができ、冷蔵庫のドアや玄関ドアの内側に「安心情報キット」の存在を示す目印をしている。 ・平成26年度は南区内で約600個を新たに配布しており、事業開始から数年間で合計3,000個以上を配布している。民生委員や校区社協に配布する方の把握から実際の配布まで行っていた。
会長	・記載内容の更新はどうしているのか。
委員	・配布した民生委員や校区社協が訪問の際などに確認していただいていることもあると思うが、特段の決まりはない。
委員	・当会でも「安心情報キット」をうまく使いたいと話している。担当のケアマネジャーがいれば月1回以上訪問していると思うので、情報の確認や更新ができると思うが、なかなか定着が難しいところである。
会長	・救急要請時の対象者の情報把握はどの自治体においても問題となっている。 ・福岡県では「とびうめネット」があり、かかりつけ医が救急の情報を入力でき

	<p>るようになっているが、利用方法が煩雑なため、なかなか普及していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、検討が必要な課題だと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動とは、具体的にどのようなものが想定されるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足の課題もあるが、地域包括ケアシステムで考えると、生活支援として、高齢者の見守りやゴミ出しなどの手助けを行うボランティア育成などが想定される。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防とは具体的にどのようなものがあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防の取り組みは、なかなか一人では継続が難しいといったところもあり、すでに行われているふれあいサロンやシニアクラブの活動のほか、身近なところで介護予防の活動ができる場を作ることが必要になってくると思う。 ・活動場所については、公民館や地区集会所はもちろんだが、地域の介護サービス事業所や施設の協力により提供いただけるところも徐々に増えてきている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度から要支援に対するサービス提供を市が行うことになるが、その対策はどうなっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取り組みとしては、各包括圏域で「65 歳からの健康づくり教室」を開催しているほか、「認知症予防教室」も保健福祉センターで開催している。また、校区衛生連合会が中心となり実施している健康づくり教室やウォーキング講座などもある。 ・具体的にはまだ平成 29 年度に向けた検討の段階である。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対策に加え、自然に起こる圧迫骨折も問題になっているが、運動することが介護予防に効果的だと思うので、予防には力を入れて取り組んでほしい。

【議題 4】地域課題解決に向けた検討について

- ・「**検討課題 1：地域包括ケアシステムの啓発（市民・専門職）について**」各委員より報告を行った。

南区医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・南区医師会の会員数は約 260 名で、地域別に 16 組にわかれ、以下 3 つの柱で運営している。 ・区民と医師との会 昭和 51 年、南区医師会発足時からの活動で、昨年は 25 箇所の公民館でそれぞれの要望に応じた活動を行った。また、今年度は「平穏死」をテーマに公開講演会を行い、約 200 名の参加があった。 ・在宅医療ネットワーク 在宅医療を考えるために平成 11 年から活動している。在宅医療の資料を作成、昨年度から HP をリニューアルし多職種にも見ていただいている。また、今年 1 月から多職種連携 SNS「メディカルケアステーション」を導入し、多職種で情報共有できるシステムを整備した。その他、訪問看護ステーションに在宅医療相談窓口を置き、住民の相談に対応している。在宅医師同行訪問事業では、在宅医療の勉強をしている。 ・認知症診療ネットワーク 平成 24 年 10 月から活動している。現在 86 名の会員で、認知症の研修等を行っ
--------------	---

	<p>ている。また、今年の「区民と医師との会」では25校区中約10校区が認知症に関する講座を希望され、在宅医療機器整備事業で購入した「物忘れ相談診断プログラム」を体験していただいた。</p>
<p>南区民生委員児童委員協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員約430名が高齢者を訪問し、日常の困りごとに応じて専門機関を紹介するなどの活動を行っている。 ・議題3であがった「安心情報キット」は、ふれあいネットワークが中心となり配布している。訪問しながら変わったことがないかを声かけしているが、すべてに対応するのは難しい。必要な情報や新しい情報等の管理を訪問介護のヘルパーなどにも行っていただけるとありがたい。
<p>南区歯科医師会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回ほどの講演会で訪問診療等の講演を行っている。また、訪問診療ユニットの使用説明会を3か月ごとに行っている。通院していた方が通院できなくなった時にかかりつけ医が往診で対応できたらと考えている。 ・多職種連携は情報共有するためにも必要だと感じている。南区医師会の多職種連携SNS「メディカルケアステーション」について、歯科医師会でも周知し活用する予定である。
<p>南区薬剤師会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・117薬局が参加しており、約400名の会員が活動している。 ・薬の重複による健康被害も多々見られており、今後はかかりつけ薬局の推進による一元化が進んでくると思っている。多職種とも連携し在宅における服薬管理に力を入れて取り組みたい。 ・議題3であがった「安心情報キット」の服薬情報は薬剤師が更新すべきであるとする。情報更新対応にはぜひ薬剤師も協力していきたい。 ・多職種連携として、南区医師会の多職種連携SNS「メディカルケアステーション」にも参加協力している。 ・年に2～3回、公民館での活動も実施し正しい服薬に関する講演を行っている。
<p>福岡県弁護士会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会の内部で「地域包括ケアシステム」は浸透していないのが実情であり、聞いたことさえないのが大部分だと思われ、その内容を説明できる人は限られている状態である。 ・以前までは相談者に事務所まで来てもらっていたが、近年、高齢者や障がい者については、弁護士が出張して相談を受けるような活動を展開している。 ・また、一部の区ではあるが、消費者被害、成年後見制度を中心とした高齢者の権利擁護にかかる研修を行った。南区にも提案しており来年度実施に向け協議していきたい。対象者は包括職員や民生委員などの主に支援者であったが、今後は市民啓発も考えられるのではないかと思う。 ・また、南区においては希望する各包括に弁護士が定期的に出張し、相談を受ける体制づくりを来年度当初から実施できるよう調整中である。
<p>福岡県司法書士会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法律の専門職として、地域包括ケアシステムの推進に積極的に関わる必要があると感じており、昨年11月にも地域包括ケアシステムの基礎的な研修を実施した。 ・各地域に2名程度の窓口委員がおり、包括にも相談窓口を情報提供している。 ・今後、窓口委員を中心として個別支援会議や退院前カンファレンス等にぜひ参加したいと考えているので、関係者に周知していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・親族のいない場合の医療行為に対する同意をどうするか問題になっており、医療関係者とも意見交換していきたい。
福岡市老人福祉施設協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムにおいて、どうしても在宅での生活が困難になった高齢者が安心して生活できる場所を提供することが老人福祉施設の役割だと考える。 ・多くの個別事例から校区の課題が抽出されることを通して、地域に地域包括ケアシステムの啓発ができるのではないかと考えている。 ・なお、施設を災害時の避難先としてもぜひ活用してもらいたい。
南区介護支援専門員連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー自身の資質を向上させ、地域に還元していく取り組みを続けている。地域包括ケアシステムとは、究極は家での看取りだと思うので、本人が最後まで在宅で生活できるよう、家族を含めて本当に必要なものをしっかりアセスメントし、ケアプランを作成していきたい。 ・地域の担い手不足に関して、専門職が地域に貢献できることはないかを考えるワークショップを主催している。 ・多職種が連携することで、ケアマネジャーだけでは解決できない課題にも対応できると思う。今後、地域ケア会議の中で個別事例にしっかり取り組んでいきたい。
南区訪問看護ステーション連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護は、入院時に地域情報を病院に伝えることや病院から退院した後の支援など、病院と地域の中間的な存在だと思っている。 ・会としては、各訪問看護ステーションのスキルアップ研修のほか、地域に関する活動も考えていきたい。 ・包括との関わりで、本人や家族の支援がやりやすくなることを実感している。今後も連携を強化し、民生委員など地域ともつながっていきたい。
福岡県医療ソーシャルワーカー協会	<ul style="list-style-type: none"> ・県の団体であり、南区としての活動はなく、地域包括ケアシステムの啓発としても何ができるかを検討するところで留まっている。 ・診療報酬改定の中で、入院期間が短くなってきており、その後の支援者との連携が必須だが、本人自身が多職種で連携した対応を望まない場合もあり、個人情報の取り扱いに難しさを感じる。
南区自治組織協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・任意団体であり加入率も低下してきている。現在8割ほどの加入であり、加入していない方は何も情報がなく把握もできない。 ・地域の団体であるので、個人的な問題や弱者問題への関わりが多いが、個人情報保護の問題で情報が把握できず、部分的なところでしか関われない。
南区衛生連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・「区民と医師との会」は衛生連合会が窓口となり各校区でテーマを決め開催している。現在の一番の関心は認知症に関する講座である。 ・高齢者が健康で長生きできるよう地域に合わせた健康づくりに校区担当保健師とともに取り組んでいる。 ・公民館での教室やサロン、高齢者の見守りなど今後は民生委員や自治協などとの横のつながりも大切に活動していきたい。
南区シニアクラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・友愛訪問の中で、社協や民生委員とともに高齢者の見守り活動を行い、また、健康で長生きするために高齢者が外出することを目標にグランドゴルフなどの取り組みに努めている。

<p>南区公民館 館長会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南区は25の公民館がある。校区の各団体が活動する場の確保のほか、関係機関との連携や助言など、地域活動を支えることを心がけている。主な事業は高齢者教室を通した「生きがい」「健康維持」「情報収集の機会づくり」である。 ・住民の高齢化にともない、「見守りネットワーク」を立ち上げて5年が経過した校区がある。活動は情報管理しやすいように自治体単位で行っているのが特徴である。一方で、自治協、社協、民生委員、シニアクラブ、公民館で「ふれあい活動推進協議会」を立ち上げ、年間計画を作成し研修やワークショップを行うことで意識向上につなげている。 ・地域住民は自分の問題にならないと具体的に動かない。現在、空家や認知症高齢者の徘徊が問題として危惧されており、地域で支えていけるように取り組んでいるところである。
<p>福岡市消防局南消防署</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に対する防火教室等を通して、災害対応としての生活支援や緊急時の救急出動を行っているほか、勤務員全員で認知症サポーター養成講座を受講した。 ・先日の在宅医療・介護部会において、DNAR（患者本人または患者の利益にかかわる代理者の意思決定を受けて心肺蘇生を行わないこと）と救急現場でのケアマネジャーの関与が話題となった。DNARに関しては、通報を受けて出動している以上、救急隊が何も救命処置をしないというわけにはいかない。必要な処置をして病院に搬送するのが我々の役割があり、これを前提とした活動になるので何卒ご理解いただきたい。また、ケアマネジャーとは相互の業務に関して理解の場を持つことが必要と考えている。

- ・「**検討課題2：身寄りがない（親族の関わりがない）高齢者への支援について**」は時間の都合により検討できなかったため、次回以降に具体的検討を行うこととなった。

【議題5】情報交換等

- ・特になし

平成27年度 第2回福岡市南区地域包括ケア推進会議 出席者一覧

【敬称略・順不同】

役職	氏名	団体名・役職名	出欠
会長	藤田 芳憲	南区医師会 会長	出席
副会長	野田 ルリ子	南区民生委員児童委員協議会 会長	出席
委員	新田 君治	南区歯科医師会 会長	出席
委員	女賀 信子	南区薬剤師会 会長	出席
委員	馬瀬 博	南区自治組織協議会 副会長	出席
委員	入江 健一	南区社会福祉協議会 会長 生活支援・介護予防部会 部会長	欠席
委員	岩子 喜代子	南区衛生連合会 副会長	出席
委員	西村 大戸志	南区シニアクラブ連合会 会長	出席
委員	大村 正治	南区公民館館長会 代表	出席
委員	徳丸 洋子	南区介護支援専門員連絡協議会 代表	出席
委員	岡部 信政	福岡県弁護士会 代表 権利擁護部会 部会長	出席
委員	栞原 和美	福岡県司法書士会 代表	出席
委員	大坪 秀生	福岡県社会福祉士会 代表	欠席
委員	小山田 望	福岡市老人福祉施設協議会 代表	出席
委員	大神 祥江	認知症の人と家族の会福岡県支部 代表	欠席
委員	井手 麻利子	南区訪問看護ステーション連絡協議会 代表	出席
委員	山本 友美	福岡県医療ソーシャルワーカー協会 代表	出席
委員	宮崎 信裕	在宅医療・介護部会 部会長	欠席
委員	大淵 信彰	福岡県警察本部南警察署 代表	欠席
委員	竹崎 幸人	福岡市消防局南消防署 代表	出席
委員	衣笠 有紀	南区保健福祉センター 所長	欠席